

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことに対する意欲はあるが、人の考えを聞いたり、自分の考えを相手に伝わるように話したりすることに課題がある。 ・字形が崩れる児童や助詞を正しく使えない児童がいる。 ・文章問題で問われていることを正しく捉えられない児童がいる。また、指やブロックを使わないと計算ができない。 ・タブレット PC の用意やログインに時間がかかる。使い始めたばかりのため、様々な機能の知識や経験を積んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方のきまりや話型を提示し、対話の流れを身に付けさせる。少人数での対話から練習を行う。毎日の音読練習や読書を通して語彙力や文章力を高めるとともに、自信をもって声を出せるようにする。 ・様々な運動や道具を使う経験を積ませ、体や指先を思い通りに使えるようにしていく。プリントでの学習や、家庭学習として日記を行い、助詞を正しく使って出来事や自分の気持ちが書けるように継続して指導をする。 ・問題場面を理解できるように、キーワードに線を引かせ、具体物を用いたり図にかかせたりする。計算カードやタブレット PC を用いて繰り返し練習させる。 ・校内の ICT 活用計画を基に、学習活動の中で写真撮影や手書き入力などの機能でタブレット PC を使って慣れさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい意欲はあるが、自分の考えを相手に伝わるように話したり、相手の発表を聞いて反応したりすることが難しい。 ・タブレット PC については、ほとんどの児童が文字を入力するときにキーボード入力ができないことによって、学習へ活用できる場面が限られている。 ・漢字や計算などの基礎学力が身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話型を提示したり、図や絵を使って話す方法を指導したりして、自分に合った伝え方を身につけるようにする。また、ペア、グループ、全体など伝え合う場を多く設定し、自分の考えを伝え、相手の考えを聞く機会を多くする。 ・キーボード入力に頼らずできる「フォーム」「オクリンク」「カメラ」その他の学習支援サイトなどを活用していく。また、名前のローマ字入力ができるように練習をしていく。 ・学習の最初に計算練習や漢字テストの時間を取る。また、それに向けて家庭学習に取り組めるように、具体的な学習方法を提示する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動では、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりするだけで終わりがちである。考えの交流からさらに、自分の考えを広げたり、よりよい考えを創り出したりすることができるようにしていきたい。 ・タブレット PC については、ローマ字の学習やキーボード入力を始めたばかりであり、技能の個人差が大きい。 ・漢字や計算などの基礎的な学力が身につけていない児童もあり、学力に個人差がある。個別に復習する時間をもつ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞く時に、共通点や相違点、注目すべき点などの視点を具体的に示す。ペアや少人数グループでの伝え合う活動を積極的に取り入れ、経験を重ねていけるようにする。 ・総合の時間や朝学習の時間、国語のローマ字の学習の時間を活用しながら、各アプリケーションの操作やタブレット入力の練習を行えるようにする。 ・算数においては学力向上支援講師と連携し、個別に指導をしたり、基礎的な課題を用意したりして基礎的な学力の定着を図る。タブレット PC のドリルパークや家庭学習ノートを活用し、個々の課題に合わせた学習を行う機会をもつ。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は高く、特にペアや少人数グループで自分の考えを伝え合う活動や、実体験を伴う活動には主体的に取り組んでいる。一方で、全体に向けての発表や話し合いに苦手意識をもつ児童が多いので、自分の考えを大勢の前でも伝えることができるように指導する必要がある。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童もあり、学力に個人差があるので個別に復習する時間をもつ必要がある。また、語彙が少なく、文章を正確に理解したり、自分の考えをうまくまとめたりできない様子も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝える機会を多くもてるようにする。また、考えの交流からさらに自分の考えを広げたり、よりよい考えを創り出したりすることができるように、相手の話を聞く際には、共通点や相違点等、注目すべき点を具体的に示し、経験を積み重ねていけるようにする。 ・算数においては学力向上支援講師と連携し、個別に時間をとったり課題を用意したりして練習の機会を保障する。国語を中心に発表する場面を意図的に設定することで、相手に伝えるという必要感をもたせ、自分の考えたことをまとめる力を伸ばしていく。また、児童自身が興味のある学習に取り組める家庭学習を進めていく中で基礎学力の向上も目指す。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高く、主体的に取り組んでいる児童が多い。一方で全体に向けての発表や話し合い活動に苦手意識をもつ児童が多い。 ・答えを求めることや、見通しがもてるものに対して意欲的に取り組むことができるが、思考の過程を説明することや、よりよいものを見だし自己を高めたりすることには消極的な面がある。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童もあり、学力に個人差が大きい。 ・文章問題で問われていることを正しく読み取ることや、数量関係を捉えて数直線に表したり立式したりすることに難しさを感じている児童が多い。 ・読書を好んでするが、実用書や図鑑、短編が多く、物語や長編に関わる機会がない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や帰りの会に、簡単なスピーチをしたり、ペアやグループでの話し合いや伝え合い活動を取り入れたりして、自分の考えを伝える機会を多くもつ。 ・自分の考えを伝えたり書いたりするときに、考え方や伝え方のよさを共有していく。また、対話的な活動を通して、新たな考えに気付くよさや、自分の考えを伝える楽しさを体感できる活動を意図的に設定する。 ・算数では学力向上支援講師と連携し、毎時ミニテストを取り入れ、未定着な児童には個別の支援を行っていく。漢字は再テストを取り入れながら、自分に合う学習ができるよう時間を設けていく。 ・分かっていることや問われていることを整理して、数直線がかけられるように繰り返し指導する。文章から読み取ったことを図や半具体物で示し、視覚的に理解できるようにする。 ・朝読書や図書の時間を通して本の紹介やブックトークを行っていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度全国学力調査では、国語、算数、理科において東京都の平均正答率より下回り、全国の平均正答率とほぼ同じ結果となった。 ・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数では、「知識・技能に関する問い全般」、理科では、「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」が特に正答率が低い傾向が見られた。 ・国語、理科では二極化、算数ではどの層も全体的に分布する傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科においても学習を苦手とする児童がいるので、授業の導入、展開を工夫し、主体的に学習を進めることができるようにしていく。 ・ペアやグループなど学習形態を工夫し、様々な考えに触れることのできる環境をつくっていく。 ・ICT 機器を活用することで、苦手な分野を補いながら主体的に学習することができる児童が多いので、今後更にICT 機器を活用していくよう教材研究に努めていく。
専科	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい題材や教材には興味があり、取り組もうとする意欲があるが、学習内容を既習内容と結び付けて捉えることが難しい傾向がある。 ・全体の発表に苦手意識をもったり、受け身になってただ聞くだけになったりする児童がいるため、対話の指導に工夫が必要である。 ・興味をもって取り組んでいるが、自分の思いや考えに自信をもてない児童がいるため、自ら考え、すすんで取り組めるような指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識同士を結び付けて考えることを習慣化させるため、言葉掛けを続けたり、既習事項を示したりする。 ・ペアやグループでの話し合いや伝え合いの機会を取り入れる。何について話し合うのか、視点をもって話し合えるようにする。 ・学習に合わせて、タブレット PC を活用して自分の考えを表現させ、理解を深めていけるようにする。